



平成8年春季特別展

卑弥呼の動物ランド

—よみがえった弥生犬—

4月20日(土)~6月30日(日)

主催／大阪府立弥生文化博物館・毎日新聞社・毎日放送

■開館時間：午前10時～午後5時（入館は4時30分まで） ■休館日：毎週月曜日（4月29日、5月6日は開館、4月30日、5月7日は休館） ■入館料：個人＝一般600円・高大生400円 小中学生・65歳以上は無料、団体＝一般480円・高大生320円（団体は20名以上） ■所在地：〒594 和泉市池上町443 TEL 0725-46-2162 ■交通：JR阪和線天王寺駅から5分「信太山」駅下車徒歩7分、南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分

考古学セミナー

時間：午後2時～4時（午後1時より受付）
場所：1階ホール

- 第1回/4月21日(日) 松井 章 奈良国立文化財研究所 【弥生人と動物】
- 第2回/5月12日(日) 茂原信生 京都大学 【日本犬のなりたちと日本人】
- 第3回/6月2日(日) 片山一道 京都大学 【骨考古学～近畿地方の弥生人～】
- 第4回/6月23日(日) 寺澤 薫 シルクロード学研究所 【絵の中の弥生人と動物】
- 第5回/6月30日(日) 館長と学芸員の対談 【弥生の動物ランドへようこそ】

※全回参加者には修了証と記念品を贈呈致します。
●本館学芸員による展示解説／毎週日曜日と祝休日（午前11時～特別展示室）

I 海を渡ってきた人と動物

渡来人を代表する山口県土井ヶ浜弥生人と長崎県協岬遺跡の縄紋人を復顔資料で比較。あなたはどちら？また、弥生人が表現したさまざまな自画像を紹介します。

II 弥生人の動物観

土器や銅鐸に描かれた動物の姿から、弥生人の抱いた動物観を探ります。シカ、イノシシ、スッポン、トンボ、…他に何が登場するのでしょうか？

III 暮らしの中の動物

食材、生活用具の材料、祭りの道具、装身具など、弥生人は動物を有効に利用しました。暮らしの中での動物の役割を探ります。牛・馬はいたのでしょうか？

卑弥呼の動物ランドへようこそ



●人と動物を描いた気比3号銅鐸
兵庫県氣比出土（重要文化財）

人間が生活していく上で、動物のはたした役割は大きなものがあります。弥生時代の動物は、よきパートナーとして、食料資源として、生活用品の原料として、人間との関わりは切り離して考えることはできません。こうした密接な関係から生まれた弥生人の動物観は、現代とは大きく違ったものだったようです。このような弥生人と動物の関わり方を探ろうというのが、今回の特別展の目的です。全国の遺跡から出土した骨や、重要文化財5点を含む絵画銅鐸・土器、骨を使った道具など最新資料を多数出品します。また、出土した骨をもとに弥生犬の姿を日本で初めて復原しました。この展示をご覧になって、現代人と動物の関わり方、ひいては自然との関わり方を再考していただく機会になれば幸いです。

●弥生人の顔：日本最大の分銅形土製品
山口県明地遺跡出土



●復元された縄紋人（右）と弥生人（左）



●祭りに使ったイノシシの下あご
岡山県南方遺跡出土

主な展示物

- 日本初の弥生犬復原模型「よみがえった弥生犬」
- 縄紋人と弥生人の復顔胸像を比較展示
- 国宝の伝説岐出土銅鐸の絵画を実物大模型で再現
- 重要文化財4点を含む絵画銅鐸11点を一堂に展示
- 重要文化財1点を含む絵画土器・土製品60点を集大成
- ☆出品総数約400点（最新の資料を多数出品）



●弥生犬の復原模型
大阪府亀井遺跡出土